

平成 19 年度生理学研究所研究会

細胞機能を制御するシグナリング機構の普遍性と特異性

日 時：平成 19 年 10 月 4 日（木） - 10 月 5 日（金）

場 所：岡崎コンファレンスセンター 小会議室

提案代表者：久野 みゆき（大阪市立大学大学院医学研究科）

所内対応者：久保 義弘（神経機能素子研究部門）

10月4日(木)(発表 20 分、討論 10 分)

Session (座長：黒崎 知博)

- 13:00-13:30 グルタミン酸イメージングによる単一シナプスレベルでの素量子解析
○廣瀬 謙造 坂本 寛和 飯沼 将 並木 繁行(名古屋大学大学院医学系研究科)
- 13:30-14:00 蛍光グルタミン酸指示分子を用いたシナプス間隙からのグルタミン酸漏出の可視化
○大久保 洋平、関谷 敬 並木 繁行 坂本 寛和 飯沼 将 廣瀬 謙造 飯野 正光
(東京大学大学院医学系研究科)
- 14:00-14:30 神経可塑性関連タンパク Arc と PSD タンパク間の相互作用およびシナプス局在機構の解析
○奥野 浩行、野中 美応、藤井 哉、竹本—木村 さやか、尾藤 晴彦
(東京大学大学院医学系研究科)
- 14:30-14:40 コーヒーブレイク

Session (座長：飯野 正光)

- 14:40-15:10 腎マクラデンサ細胞の神経型一酸化窒素合成酵素
○河原 克雅 川田 英明 安岡 有紀子、福田 英一(北里大学医学部)
- 15:10-15:40 Essential role for STIM1 in mast cell activation and anaphylactic responses
○馬場 義裕、黒崎 知博
(横浜理化学研究所 免疫アレルギー科学総合研究センター)
- 15:40-16:10 プレシナプスアクティブゾーンタンパク質RIM1とVDCCβサブユニットとの結合が神経伝達物質放出にもたらす新たな機能
○森 泰生、清中 茂樹 若森 実 三木 崇史 瓜生 幸嗣(京都大学大学院工学研究科)
- 16:10-16:20 コーヒーブレイク

Session (座長：曾我部 正博)

- 16:20-16:50 KcsA カリウムチャネルゲーティング構造変化の1分子追跡
清水 啓史 岩本 真幸 今野 卓 二瓶 亜三子、佐々木 裕次 ○老木 成稔
(福井大学医学部)
- 16:50-17:20 プリズム型全反射顕微鏡を用いた複数セカンドメッセンジャーのリアルタイムモニター
○最上 秀夫、安達 英輔 鈴木 優子、嘉副 裕 佐藤 洋平、櫻井 孝司、
上山 健彦、齋藤 尚亮、浦野 哲盟(浜松医科大学)
- 17:20-17:50 細胞内静電伝達反応素過程の1分子解析
○佐甲 靖志(理化学研究所)
- 18:30- 懇親会

10月5日(金)

Session (座長：尾藤 晴彦)

- 8:45-9:15 マクロファージにおけるTRPV2チャネルの生理的機能
○長澤 雅裕、中川祐子、小島 至 (群馬大学生体調節研究所)
- 9:15-9:45 小脳脊髄変性症14型(SCA14)発症に關与するPKCgamma変異体の機能解析
○足立 直子、小林 剛、高橋 英之、川崎 拓実、酒井 規雄、齋藤 尚亮
(神戸大学バイオシグナル研究センター)
- 9:45-10:15 異種GPCR相互作用による中枢シナプス可塑性の調整
○田端 俊英、上窪 祐二、狩野 方伸 (大阪大学大学院医学系研究科)
- 10:15-10:45 低分子量GTP結合蛋白の細胞内小胞上での活性変化の可視化
○松田 道行 (京都大学大学院生命科学研究科)
- 10:45-10:55 コーヒーブレイク

Session (座長：小島 至)

- 10:55-11:25 接着斑におけるメカノトランスダクション：力学刺激によるアクチン重合の制御機構
○平田 宏聡、辰巳 仁史、曾我部 正博 (生理学研究所・名古屋大学大学院医学系研究科)
- 11:25-11:55 内耳蝸牛内高電位の成立機構
○日比野 浩、任 書晃、倉智 嘉久 (大阪大学大学院医学系研究科)
- 11:55-12:25 膜電位細胞長変換素子プレステンの分子構築と動的構造変化
Kristin Rule, 立山 充博、山本 友美、○久保 義弘 (生理学研究所)
- 12:25-12:55 HCNチャネルによる骨代謝制御
○納富 拓也、Tim Skerry, John Burford, 川脇 順子、久野 みゆき
(大阪市立大学大学院医学研究科)